

# Mommy

## マミー

監督:二村真弘・プロデューサー:石川朋子 植山英美(ARTicle Films)

撮影:高野大樹 佐藤洋祐・オンライン編集:池田聰・整音:富永憲一・音響効果:増子彰

音楽:関島種彦 工藤達・製作:digTV・配給:東風

2024年・119分・DCP・日本・ドキュメンタリー・©2024digTV

[mommy-movie.jp](#)

母は、  
無実だと  
思う。

和歌山毒物カレー事件から  
26年目の挑戦



# 和歌山

## 毒物カレー事件

1998年7月、夏祭りで提供されたカレーに猛毒のヒ素が混入。67人がヒ素中毒を発症し、小学生を含む4人が死亡した。犯人と目されたのは近くに住む林真須美。凄惨な事件にメディア・スクランムは過熱を極めた。自宅に押し寄せるマスコミに眞須美がホースで水を撒く映像はあまりにも鮮烈だった。彼女は容疑を否認したが、2009年に最高裁で死刑が確定。今も獄中から無実を訴え続けている。

### 事件発生から四半世紀、最高裁判決に異議を唱える。

本作は「目撃証言」「科学鑑定」の反証を試み、「保険金詐欺事件との関係」を読み解く。「まあ、ちょっと、どんな味すんのかな」と思って舐めたわけ」とヒ素を使つた保険金詐欺の実態を眞須美の夫・林健治があけすけに語り、確定死刑囚の息子として生きてきた林浩次(仮名)が、なぜ母の無実を信じるようになったのか、その胸のうちを明かす。林真須美が犯人でないのなら、誰が彼女を殺すのか?二村真弘監督は、捜査や裁判、報道に関わった者たちを訪ね歩き、なんとか突破口を探ろうとするのだが、焦りと慢心から取材中に一線を越え…。

映画は、この社会の

でたらめさを暴露しながら、  
合わせ鏡のようにして、

私たち自身の業や欲望を映し出す。

不思議な映画だ。

何重にも入れ子構造になつたテーマが見る者を惑わせる。冤罪告発、息子と母の関係、不可思議な家族に加えて、監督自身が大きな存在としてせり出している。

一度も画面に登場しない林真須美が眞の主役かも知れない。「筋縄ではいかない本作は、ドキュメンタリーのあり方を根底から問いかける問題作となるだろう。

信田さよ子

(公認心理師)

衝撃的な「映画」だ。事件の当事者の人々の、語る内容はもちろん、その語り口、声、身体は、「こちらの安易な予断を悉く裏切っていく。家族の、親子の、夫婦の、人間の計り知れなさ」。

膨大な時間の中の絶望と、しかし、それに抗うを感じた。

押見修造

(漫画家)

多くの人が「その話はもうやめてくれ」と逃げる。

なぜ、逃げるのか。

なぜ、カメラの前で語らないのか。

各人の後ろめたさが渦となり、問いかけてくる。

武田砂鉄

(ライター)

この映画はスクープだ。

そして誤解を恐れず言えば、痛切なるエンタメ作品だ。

取材の深さはもちろん、撮影・構成・編集などの表現力も一級品。同業者として脱帽、と同時に嫉妬した。

大島新

(ドキュメンタリー監督)

mommy-movie.jp

□ mommy\_movie2024

8.3

より  
土

映画鑑賞ガイド付 全国共通特別鑑賞券¥1,500(税込)

上映時間—10:45 | 13:25 | 16:05 | 18:30

初日舞台挨拶 8/3(土)10:45、13:25の回

上映後、登壇:二村真弘監督

[シアター]  
イメージフォーラム

全席指定／オンライン予約あり

渋谷駅より徒歩8分、宮益坂上かり、次の信号を右手入る

Tel.03-5766-0114 www.imageforum.co.jp

